はじめに

1　試験の傾向

⑴　保育原理とは

保育原理とは、その名の通り、保育所保育の基本的な原理・原則を学ぶ科目です。試験問題は、20 問、試験時間は 60 分です。１問５点の 100 点満点のうち、60 点以上の得点で合格です。

出題範囲は、保育の意義及び内容や方法、「保育所保育指針」における保育の基本、国内外の保育の思想と歴史的変遷、保育の現状と課題等です。

⑵　試験の傾向

最近の試験の出題範囲をまとめると、ほとんどが「保育所保育指針」からの出題であることが分かります。12 問正解すれば合格の試験ですので、「保育所保育指針」をいかに完璧にするかが、保育原理突破の鍵だと言えます。

〈直近３年分の出題範囲〉

	保育所 保育指針	そ の 他 の法令	保育の思想と歴史 （外国／日本）	保育の現状と課題 （外国／日本）
令和３年 前期	15 問	１問	３問 （２問／１問）	１問 （０問／１問）
令和２年 後期	13 問	２問	３問 （１問／２問）	２問 （１問／１問）
令和元年 後期	11 問	２問	５問 （２問／３問）	２問 （１問／１問）
平成 31 年 （令和元 年）前期	15 問	１問	３問 （２問／１問）	１問 （０問／１問）

「保育所保育指針」に関する問題の形式ですが、用語の穴埋めや、内容の理解を問う問題が多いです。また、「保育所保育指針」と実際の保育を関連させた事例問題も毎年２～３問出題されますが、こちらは一般的な道徳判断で解答出来るものが多いので、対策はほとんどいらないでしょう。

「保育所保育指針」に関するもの以外の問題は、教育原理や社会福祉、社会的養護等の科目の出題範囲と関連した内容となっています。「保育所保育指針」と比べると出題される人物・内容が限られているため、対策は容易いです。

また、後半に１問、表の読み取り問題が出題されることが、ここ数年の恒例となっています。こちらも表を見れば解けるサービス問題ですので、過去問を見ておく程度で対策はほとんどいらないと言えます。

保育原理突破の鍵は、「保育所保育指針」にある！

2　テキストの使い方

⑴　保育士試験全てに共通する勉強の仕方

これまでみなさんがやってきた勉強法は、小学校から高校で行ってきた授業と定期試験の関係のように、テキスト（インプット）を長期間にわたりこなし、そのあとに試験や問題集（アウトプット）を１度か２度する、といったスタイルだったかもしれません。

それに対して、本講座では、アウトプットを重視しています。まず１度テキストを読み（この時点でテキストを覚えていなくて構いません）、章末の問題を解いたら、過去問題集をどんどん解いてください。

最初は、１～２問しか解けなくても大丈夫です。１回目は、１～２割だった正答率が、２回目は３割、３回目は４割…と上がっていくと思いますので、10 割解けるようになるまで、繰り返してください。大体同じ問題集を５周すればこのレベルまで行けると思います。

そして、過去問で間違えたところがあれば、テキストの該当箇所を随時確認してください。

保育士試験には、独特な言葉遣いや問題の出題パターンがあります。実際の過去問に慣れることで、これらの特徴を掴み、効率よく必要な知識を覚えることが出来ます。

POINT

何度も、忘れては思い出すことを繰り返していくうちに、次第に記憶が定着していきます！

⑵　保育原理の勉強の仕方

先程、保育原理突破の鍵は「保育所保育指針」にあると言いましたが、ただ「保育所保育指針」を読み込んでおけば良いというわけではありません。というのも、かなり細かく違いを問う問題が出題されるからです。

例えば、平成 30 年度の後期の保育原理の問題で、「各職員は、（中略）必要な知識及び（　技能／技術　）の修得、維持及び向上に努めなければならない。」というものがあります。

選択肢は「技**能**」と「技**術**」。一文字違うだけで、意味もそう違いません。正解は、「技術」なのですが、これは、「保育所保育指針」の内容をなんとなく読んで理解しているだけでは解けません。該当部分を覚えていないと解けないのです。

もちろん、指針の全てを暗記するのは大変ですし、効率的でありません。そこで、本テキストでは、試験によく問われる部分を、用語で覚えて欲しいところと、内容を理解していれば良いところとに区別しました。

「内容を理解していれば良い知識」は下線で、「用語で覚えて欲しい知識」は赤字で、それぞれ示しています。赤字のところは、一語一句暗記してください。

本講座では、アウトプットをメインとしながら、十分に合格に至る知識を身につけてもらうことを目的としていますが、「保育所保育指針」に関しては、暗記ペンを利用したり、読み上げたりして覚えていくのも方法かと思います。

全て覚えるのは大変に思えるかもしれませんが、合格への近道です。一緒に頑張りましょう。